

ナミビア月報

(2019年6月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- 与党 SWAPO 元事務局長は、7億3,000万ナミビアドルを支出する SWAPO 本部改修に疑問
- 副大統領の性差別的と取られる発言に批判
- 「カラハリ砂漠作戦」(注：警察と軍が共同で犯罪撲滅に従事するもの)のパトロール中に兵士が民間人を射殺
- 北部オンダングワ都市部評議会議員の補欠選挙で与党 SWAPO の候補者が無所属候補に辛勝
- 大統領は、「カラハリ砂漠作戦」の中止を求める呼びかけは現政権の信用を貶めることを狙った野党の選挙戦略だと批判

【外交・対外関係】

- 内閣は、UNAIDS 事務局長候補者として、前保健・社会サービス大臣の擁立をエンドース
- 日本政府が小学校教室引き渡し
- 大統領がナイジェリアの“民主主義の日”を祝うためナイジェリアに出発
- ロシアが第一回ロシア－アフリカサミットを10月に開催
- 国連は干ばつ支援のため150万ナミビアドルを支援する旨発表
- 中国大使は、18日から20日にかけて行われる第一回中国－アフリカ経済貿易博覧会は「黄金の機会」であるとし、ナミビア企業はこの機会を逃さないよう呼びかけ
- 大統領、第12回米アフリカ・ビジネス・サミット出席のためマプト訪問
- 国際関係・協力省副大臣、FOCAC フォローアップ調整官会合他に出席のため、北京訪問
- 独政府との間で13億ナミビアドル(8,000万ユーロ)の低金利ローンに関する金融協力合意を締結
- トルコ干ばつ支援を表明

【経済】

- 公共事業・運輸大臣は南部アフリカにおける物流ハブとなるべく進めている「国際物流ハブプロジェクト」を支援して行くと再確認
- シンガポール証券取引所は、オホロンゴセメント会社を15億ナミビアドルで買収する計画を有する中国関連企業に対し、マネーロンダリング調査の必要性を呼び掛けた

【その他】

- 首都ウィントフック市が深刻な水不足について警告

【内政】

●与党 SWAPO 元事務局長は、7 億 3,000 万ナミビアドルを支出する SWAPO 本部改修に疑問。

与党 SWAPO のイブラ＝イサーナ元事務局長は、干ばつ救済プログラムのため国民に給与の 2%の寄付を求めている一方で、与党が本部の改修のため 7 億 3,000 万ナミビアドルの予算を割り当てる決定をしたことに疑問を呈した。同氏は、前回の本部改修の際には中国政府から資金を貸与することは、次の世代に債務を引き継ぐこととなってしまう、リスクがあるとして問題を提起していた。ナミビアン紙は、中国政府が今回の改修のため、資金提供の見込みであると報道しているが、駐ナミビア張中国大使は、SWAPO と中国民間企業間の商取引には中国政府は関与していないとし、当該報道は根拠のないものであり中国のイメージを傷つけるものであると主張した。(5 日付ナミビアン紙 1 面, 7 日付ウィントフックオブザーバー紙 4 面)

●副大統領の性差別的と取られる発言に批判。

9 日にオンドングワで行われた与党 SWAPO 集会において、副大統領は、「美しいからといって選挙に立候補出来るわけではない」と与党支持者に対して発言し、Angelina Immanuel 無所属候補（注：北部オンドングワ都市部評議会議員の補欠選挙に無所属で出馬）について言及した。また、同副大統領は祖母達が知らないような無所属候補者には投票しないよう呼びかけた。政治アナリストのホップウッド氏は、同副大統領には「ずれた」発言をする傾向があり、これは幅広い有権者や SWAPO の中核的支持者の考えとも共鳴しないとした。法務支援センター (LAC: Legal Assistance Centre) もまた、この副大統領による発言は「性差別的で不適切」であるとした。(11 日付ナミビアンサン紙 1 面)

●「カラハリ砂漠作戦」のパトロール中に兵士が民間人を射殺。

13 日、首都ウィントフック市内で「カラハリ砂漠作戦」（注：5 月中旬より実施されている犯罪検挙・抑止を目的とした警察・軍共同の治安維持活動）の構成員でパトロール中の兵士がタクシードライバーを射殺した事件を受け、武装兵士による市民に対する過剰な対応が大衆による大きな反発を生んだ。警察庁報道官のシクワンビ主任警部によると、この兵士はカラハリ砂漠作戦の間、警察と一緒に活動していた由。当該タクシードライバーは警察が設置した道路封鎖用ブロックを避けるため、Uターンをしようとした際に射殺された。ナミビア国防軍のメンバーがこの事件に関連して逮捕されており、ウィントフック治安判事裁判所に出廷することになっている。ンデイツンガ警察長官は、事件は残念で遺憾であるとし、作戦のメンバー全員がカラハリ砂漠作戦について説明を受け、訓練されている旨述べた。ナミビア交通タクシー協会のジャニューアリー代表は、13 日、兵士は兵舎に戻されるべきであると強調し、なぜ兵士が市中をパトロールすることが許されるのか疑問であると述べた。ベナーニ野党党首は、実際に何が起きたのか直ぐに調査を行うべきと呼びかけるとともに、カラハリ砂漠作戦に従事している人々はその行動を自制するよう警告すべき時だとし、路上に兵士を派遣することは悪名高い Koevoet（注：アパルトヘイト体

制下の警察特殊部隊)が夜間外出禁止命令を課したアパルトヘイト時代を思い起こさせると発言。(14日付ナミビアン紙1面, ナミビアンサン紙1面, ニューエラ紙1面, ウィントフックオブザーバー紙1面, パトリオット紙1面)

●北部オンダングワ都市部評議会議員の補欠選挙で与党 SWAPO の候補者が無所属候補に辛勝。

北部オンダングワ都市部評議会議員の補欠選挙において, 15日, 与党 SWAPO の Leonard Negonga 候補が過半数を獲得し(3,792票の総投票数の内1936票), 27歳の Angelina Immanuel 無所属候補(1,402票)に僅差で勝利した。その他の候補者は, 人民民主運動(野党 PDM: People's Democratic Movement)の Johannes Martin 候補が326票, 全人民党(野党 APP: All People's Party)の Asser Vincent 候補が97票, 民主会議(野党 CoD: Congress of Democracy)の Mandume Andreas 候補が31票を獲得した。結果は真夜中過ぎにナミビア選挙管理委員会によって発表された。登録有権者数は16,000人であった一方で, 総投票者数は3,792人と, 多くの有権者が当該選挙には無関心であったことを特徴づけた。SWAPO の得票数について, オブザーバーやコメンテーターからは批判の声が上がっており, 多くは今年11月に予定されている大統領選挙及び国民議会選挙のため与党は戦略を練り直す必要があるとしている。ホップウッド公共政策研究所代表は, SWAPO の支持率について, ナミビア独立以来北部中央地域(Oshana, Omusati, Oshikoto, Ondangwena)で51%以下を切ったことがなく, これは重大な意味を持つ結果である旨述べた。(17日付ナミビアン紙2面, ニューエラ紙1面, ナミビアンサン紙1面)

●大統領は、「カラハリ砂漠作戦」の中止を求める呼びかけは現政権の信用を貶めることを狙った野党の選挙戦略だと批判。

11日, 国民統一民主機構(NUDO: National Unity Democratic Organisation)代表団が大統領を表敬訪問した際, 人権侵害であるとして「カラハリ砂漠作戦」の中止を求めたことに対し, ガインゴブ大統領は, そのような呼びかけは現政権の信用を下げることを目的とした選挙戦略であると発言。大統領は, ナミビア警察を支援するために軍を導入する決定を下す以前は, ナミビアは, 人々が銃を携行し, 殺し合い, 他人の安寧を邪魔するといったような無法状態に陥っていたとして, 「カラハリ砂漠作戦」を引き続き継続していくと述べた。また, 憲法上, 軍は市民を逮捕することは出来ないが, ナミビア警察のバックアップとして用いることは出来る旨述べた。また, 大統領は, 同作戦に参加していたナミビア国防軍の一人がジンバブエ国籍の男性を射殺した件について言及した一方, 一人の無責任な軍人のために「カラハリ砂漠作戦」を中止することはできないと発言。また, インディツンガ警察長官は, 銃火器の使用について, 特に容疑者が逮捕に抵抗した場合など限られたケースのみに最低限の使用は認められるものの, それ以外, 作戦に参加するメンバーの誰も銃火器の使用は認められていない旨述べた。(19日付ナミビアン紙5面)

【外交・対外関係】

●内閣は、UNAIDS 事務局長候補者として、前保健・社会サービス大臣の擁立をエンドース。

内閣は、バーナード・ハウフィク副大統領府保健担当特別顧問（注：前保健・社会サービス大臣）をナミビア政府としてUNAIDS 事務局長候補に擁立することをエンドースした。これを受け、同特別顧問は、重い責任と困難があるが、このポストに就任するのであれば、やっていける自信がある旨述べた。同特別顧問がナミビアン紙に対して述べたところ、HIV-AIDS は自分の専門分野であり、もし自身がそのポストに就任した場合には、2030 年までに HIV-AIDS の流行を収束させることを目的とした 2016 年国連政治宣言を実行して行くとして述べた。（5 日付ナミビアン紙 6 面）

●日本政府が小学校教室引き渡し。

日本政府は、草の根・人間の安全保障無償資金協力によってコマス州のオキカス（Augeikhas）小学校に4つの教室と1つの備品室からなる校舎を支援し、6日、原田大使及びンギポンドカ教育・芸術・文化副大臣出席のもと引き渡し式を行った。この支援により、これまで午後に登校・勉強していた3年生、140人が他の生徒同様、朝から授業に出席できる。Augeikhas 小学校は、ナミビア独立以前の1969年に同地域の人口増加に伴って設立され、現在では1,049人の在校生と35人の教師が在籍し、同地域の中でも特に高い貧困率の地域に立地している。また、同地域への人口流入により人口密度が上昇する一方で、2013年に導入された初等教育無償化により同小学校における生徒数は増加しており、これまでの教室数では全ての生徒を十分に受け入れることが出来ていなかった。日本政府によるナミビアでの草の根・人間の安全保障無償資金協力は1997年に開始され、総額4,340万ナミビアドルによりこれまで61のプロジェクトが実施されている。（11日付ナミビアン紙ユースコーナー4面、ニューエラ紙9面）

●大統領がナイジェリアの“民主主義の日”を祝うためナイジェリアに出発。

11日、ガインゴブ大統領はナイジェリアの“民主主義の日”を祝うイベントに出席するため、ナイジェリアに向けて出発。12日は、西アフリカ諸国において“民主主義の日”として、祝日とされている。（11日付ナミビア国営放送（nbc）電子版）

●ロシアが第一回ロシアーアフリカサミットを10月に開催することについて、国際関係協力省副大臣が称賛。

ロシアのウラジミール・プーチン大統領が主導し、10月にソチにおいて第一回目となるロシアーアフリカサミットを主催することに対し、11日、首都で開催されたロシアのナショナルデーレセプションに出席したホエベス国際関係・協力省副大臣が、プーチン大統領のイニシアチブを称賛した。同副大臣は、このサミットは、アフリカにとって相互利益の増進に繋がることのほか、外交関係を再構築し、ロシアとアフリカ連合(AU)との協力関係をより強化する機会をもたらすこととなる旨発言。ロシアーアフリカサミットの構想は、

2018年7月に南アフリカのヨハネスブルグで開催された BRICS (Brazil, Russia, India, China, and South Africa) サミットにおいてプーチン大統領により発表された。更に、ホエベス副大臣は、現在ロシアにはナミビア人学生が120人留学しており、そのうちの93人が2019年7月に修学する予定であると述べた。(13日付ニューエラ紙3面)

●国連は干ばつ支援のため150万ナミビアドルを支援する旨発表。

12日、在ナミビア国連調整官のオデデ氏は、干ばつにより食料危機に陥っている推定70万人の救済のため、150万ナミビアドルを拠出する旨発表した。この発表は、首都ウィントフックの国連ハウスで開催された外交団及び国際機関との朝食会合において発表された。同会議は、国連開発システムの再編（国連改革）に関する国連安保理決議72/279の実施についてと、干ばつ緊急対応についての情報共有とを目的として開催された。同会議においては、ナミビア政府及び国民を代表してホエベス国際関係・協力省副大臣より、国連の貢献について謝意が表明された。(13日付ニューエラ紙1面、ナミビアンサン紙3面)

●中国大使は、18日から20日にかけて行われる第一回中国－アフリカ経済貿易博覧会（於長沙）は「黄金の機会」とし、ナミビア企業はこの機会を逃さないよう呼びかけ。

駐ナミビア張・中国大使は、18日から20日にかけて中国湖南省の省都である長沙で開催される第一回中国－アフリカ経済貿易博覧会は、ナミビア企業にとって「黄金の機会」とし、このチャンスを逃さないよう呼びかけた。同博覧会の開催は、昨年9月に開催されたFOCAC (Forum for China - Africa Cooperation) において、習近平国家主席が約束したものの一部である。別の報告では、2019年第1四半期における中国からナミビアへの輸入額は8億5,900万ナミビアドルである一方、ナミビアから中国への輸出額は54億ナミビアドルであり、ナミビアにとって中国は最大の輸出国の立場を保持している。輸出先として中国に続く南アフリカへの同次期の輸出額は36億ナミビアドルである。ナミビア統計局によると、南アフリカへは主に貴石、金属、家畜や魚類を輸出しており、その他の輸出国はボツワナ、ベルギー、スペインで輸出額はそれぞれ24億ナミビアドル、19億ナミビアドル、9億4200万ナミビアドルと続く。(15日付ニューエラ紙15面)

●大統領、第12回米アフリカ・ビジネス・サミット出席のためマプト訪問。

大統領は、19-21日にモザンビークの首都マプトで開催された第12回米アフリカ・ビジネス・サミットに参加した。同ビジネスサミットには、アフリカ諸国から国家元首、政府関係者の他、米及びアフリカのビジネスリーダー、投資家等1,000人以上の参加があった。

また、マプト滞在中、ガインゴブ大統領は、ニュシ・モザンビーク大統領と会談し、ヘンガリ大統領報道官によれば、ニュシ大統領はSADC議長であるハーゲ・ガインゴブ大統領のリーダーシップはあらゆる点において実践的で先駆的なものであったと称賛した旨述べた。(21日付ニューエラ紙1面)

●**ホエベス国際関係・協力省副大臣, FOCAC フォローアップ調整官会合他に出席のため, 北京訪問。**

25日, ホエベス国際関係・協力省副大臣は, 北京において開催された FOCAC フォローアップ調整官会合において, ガインゴブ大統領の代理としてスピーチを行い, FOCAC プロセスにおいて, アフリカと中国は 2015 年~2018 年のヨハネスブルグ行動計画から 2019 年~2021 年の北京行動計画へと強固な関係を維持してきていると称賛した。

また, 同会合に先立ち, 23 日, ホエベス副大臣は, 北京にて Chen Xiaodong 中国外交副部長と会談し, 二国間協議を行った。(24 日付国際関係・協力省公式 Facebook)

●**独政府との間で 13 億ナミビアドル (8,000 万ユーロ) の低金利ローンに関する金融協力合意を締結。**

24 日, シュレットヴァイン財務大臣と近々離任するシュラガ独大使の間で, 13 億ナミビアドル (8,000 万ユーロ) 相当の低金利ローンに関する金融協力合意に署名を行った。同協力合意は, ナミビア国家開発計画の骨格である水, 運輸, マイクロファイナンス部門などの優先部門を対象としている。シュラガ独大使は, 今次ローンはナミビアにとって有利な通貨, 特にランドあるいはナミビアドルで返済する選択肢を与えている旨述べた。具体的プロジェクトとしては, 3 億 2,000 万ナミビアドルが道路の修復と維持管理プログラムや, 6 億 4,000 万ナミビアドルのウイントフックの給水確保などが盛り込まれている。今日まで, 独によるナミビアへの経済協力は約 150 億ナミビアドル (10 億ユーロ) 以上に達している。(26 日付ナミビアン紙 13 面, ニューエラ紙インサイドビジネス 11 面, ナミビアンサン紙マーケットウォッチ 3 面)

●**トルコ干ばつ支援を表明。**

26 日, ツルン・トルコ大使は, 先のガインゴブ大統領による干ばつに対する緊急事態宣言に応え, 学校における栄養プログラムを支援する旨公表した。同発表は, 同日, ツルン大使とナンディ＝ンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣との会談の中で行われた。(27 日付国際関係・協力省公式 Facebook)

【経済】

●**公共事業・運輸大臣は南部アフリカにおける物流ハブとなるべく進めている「国際物流ハブプロジェクト」を支援して行くと再確認。**

ムトルワ公共事業・運輸大臣は, ウォルビスベイ港を南部アフリカにおける物流ハブとするべく進めている「国際物流ハブプロジェクト」を支援して行くと再確認した。同大臣が, 今週, ウイントフック市のウォルビスベイ回廊グループ (WBCG) 本部を訪問した際の発言である。この訪問により, WBCG の権限や実施中の様々なプロジェクトの最新情報について情報共有がなされた。ウォルビスベイ港とリュエデリッツ港を内陸国たる

SADC 加盟国の代替貿易ルートとして位置づけることに焦点を当て、地域内及びアフリカ大陸内の貿易の強化に貢献しており、2018 年においてウォルビスベイ港を通じた貨物の輸出入量は、48%増の 73 万トンになった。(7 日付ナミビアン紙 18 面、ニューエラ紙 17 面、ナミビアンサン紙 1 面)

●シンガポール証券取引所は、オホロンゴセメント会社を 15 億ナミビアドルで買収する計画を有する中国関連企業に対し、マネーロンダリング調査の必要性を呼び掛けた。

シンガポール証券取引所に上場している International Cement Group (ICG) は、今年 3 月にナミビア北部 Otabi 近くの工場を運営する Ohorongu Cement を買収することに合意したと発表した。中国と繋がりがある ICG 社は、融資を受ける計画があったが、シンガポール政府関係者は同融資に納得しておらず、取引を停止させた。シンガポール証券取引所は、21 日、「ICG 社は購入に必要な十分な資金がなく金融機関や株主から多額の融資を受ける可能性がある。このような融資は、対象事業の潜在的な損失を考慮した場合、経営状態の悪化など重大な事態を起こすかもしれない」と発言。声明によると、Ohorongu Cement がローン返済のために十分な利益を生み出すという確証はないとしている。シンガポール証券取引所は、ICG 社に対し、取引に必要な資金源について外部監査人からの監査を受け、マネーロンダリングには当たらないこと、その正当性が確保されることが必要であると呼びかけた。(26 日付ナミビアン紙 1 面、ナミビアンサン紙 1 面、マーケットウォッチ 1 面)

【その他】

●首都ウィントフック市が深刻な水不足について警告。

ウィントフック市は、毎月 15% の節水目標を達成するために住民が協力しなければ水が枯渇すると警告している。ウィントフック市による、5 月 27 日までの一週間分の水報告書は、可能な限りの一滴の水でさえ節約するよう継続的に警告していたにも関わらず、10% の過剰消費が見られるとした。週目標は 46 万 5,000 立方メートルだが、その週に実際に記録された使用量は 50 万立方メートルを超えていた。ウィントフック市は、漏水を確認するため全ての住民が水道メーターを頻繁にチェックすることを求めており、個人の住居では 1 日 1 人当たり 90 リットル以下、企業では 1 人あたり 20 リットル以下にすべきであると呼びかけている。雨季に降水量が少なかったためダムの水位が低く、ウィントフック市は帯水層と再生水プラントに依存している。46 万 5,000 立方メートルの供給量のうち 65% をこの 2 つの水源に頼っている。(5 日付ナミビアンサン紙 5 面)

(了)